# 教育学部・教育学研究科

Ⅰ　研究水準 ..... 研究 9-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 研究 9-3

## Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1.　研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究業績総数については、平成 16 年度から平成 19 年度の教員（教授・准教授 33 名）の一名当たりの著書 10.8 件、論文 15.3 件であり、そのうち国際的研究成果の公表は 2.5 件、和文以外での発表研究論文は 6.9 件となっている。また「その他」に属する解説論文等は、教員一名当たり 6.5 件となっており、研究活動の社会への還元・活用等が行われている。この他に種々の研究活動が展開されている。研究資金の獲得状況について、科学研究費補助金の平成 16 年度から平成 19 年度の採択件数は 105 件（教員一名当たり 2.3 件）、総額約 5 億 6,917 万円（教員一名当たり約 1,265 万円）となっている。平成 18 年度の外部資金は教員 45 名（教授、准教授、助教）に対して５億円超（１名あたり 1,120 万円）となっていることは、優れた成果である。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

### 2.　研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、学部・研究科等を代表する優れた研究業績リストに示すとおり、第１回日本学術振興会賞、日本認知科学会論文賞、サントリー学芸賞、大佛次郎論壇賞奨励賞、第 12 回年次大会優秀発表賞、第４回日本学術振興会賞等の賞を受けた優れた研究を行っている。卓越した研究業績として、２～４ヶ月の乳児の視聴覚的刺激に対する反応、中枢神経難病の症状緩和への電気刺激の効果、また教育の世紀が挙げられる。社会、経済、文化面への貢献では、上記のような学術面での成果の還元によって行われているのに加え、優れた研究業績としては、「学ぶ意欲とスキルを育てるーいま求められる学力向上策ー」が挙げられるなど、優れた成果である。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待され

る水準を上回る」と判断される。

## II　質の向上度

### 1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は２件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。